

昨年、一年間において南国市内で発生した子ども（一歳から十五歳まで）の交通事故は、死者はなく、傷者七十人となっています。しかし、この統計では、事故後四十八時間以内に死亡したものは含まれておりません。ところで実際に、電車の踏み切りでの自転車事故の小学生一人が、四十八時間を過ぎて死亡しているの、傷者六十九人、死者一人ということになります。

昨年、一年間において南国市内で発生した交通事故の数に比べて、また、この事故数は南国市内で発生した交通事故のみです。市外で被害を受けた子どもをふくめると、もっと人数が増えるかも知れません。昨年の事故で、子ども側の原因を調べてみると

子どもを交通事故から守ろう

- ▼六歳未満は
 - 車の直前 一人歩き
 - 直後の横断 六人
 - 路上への走り出し 六人
 - 車輻への同乗中 五人
 - 幼児の一人歩き 四人
 - ▼六歳から八歳まで
 - 自転車に乗っていた者 二人
 - 車の直前、直後の横断 二人
- ▼九歳から十二歳まで
 - 自転車に乗っていた者 六人
 - 車の直前、直後の横断 二人
 - 車輻に同乗中 十一人
- ▼十三歳から十五歳まで
 - 自転車に乗っていた者 八人
 - 車輻に同乗中 八人
 - 二輪自動車や運転中 三人

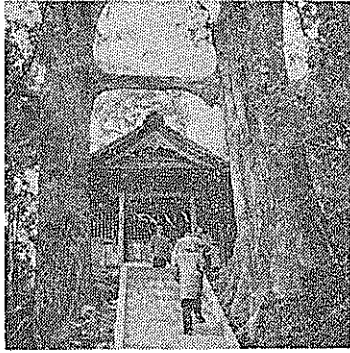
このように統計に表われた事故の原因からの教訓は、幼児、保育児、小学校の下級生に対しては、「正しい道路の歩き方の教育」、特に、車の直前、直後の横断、道路への飛び出し、は絶対にさせないようにつけることが大切です。小学生の上級生、中

と、まことにお寒い状態にあります。市内の中学生は大部分が自転車通学であり、自転車専用道路は一カ所もなく、統計に出た十六件の自転車事故はそなを物語っています。歩道と車道の区別も、後免竹中間の約三キキらずに一カ所あるのみで、ダンブや大型車がひしめきあって通る道を、保育園児や小学生が小さくなって、危険にさらされながら通学、通園をしている状態にあります。「子どもを交通事故から守る」ことは思想や党派を越えて誰れでも賛成できることです。四月ともなれば、新入生新入園児が通学、通園をします。私たちはそれぞれの立場から、事故防止に精いっぱい力を尽くしてほしいものです。

桑の川の鳥居杉

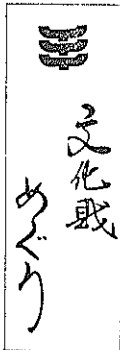
(市指定天然記念物)

穴内川の上流には市のへき地といわれる旧上倉村の異滝、桑



の川、大改野、中の川の四部落があり、その一つ桑の川に、土地の人たちが生き鳥居とよんでいる鳥居杉があります。

この鳥居杉は豊年を祈願する地主神社への参道、



石段の左右、両側に杉の大樹がそそり立ち、地上四、五メートルのところから水平に出た長さ三・五メートルの一本の枝で

つながり、完全な巨状を呈しています。右側の杉が大きく、高さ約四十メートル、地上二メートルの幹回り五・五メートル、左側の方は高さ約三十メートル、幹回り三・六メートルあります。連理の枝は左右いづれから出たものか、両方から出てつなげたものか、いづれともわかりませんが、形はかなりひらたく中央の一番くびれたところの回りでも約五十センチほどあ



ります。全国でも日型の木は珍らしく島根県下クロマツがあるのみで、連結した枝も水平でなく、鳥居杉よりはずっと小さなものです。

後免のオガタマの木

(市指定天然記念物)

後免町、中の丁の舟入川岸の

古い墓地にある常緑樹で、高さ約十四メートル、地上三メートルのところまで、地上五メートルあたりで分岐しており、樹令は約三百年といわれています。葉柄に蜜腺があつてミツを出すため、天然記念物のミカドアゲハ(蝶の一種)が好む特色をもっています。数年前から、舟入川をいを除く周囲に人家が建ち、根元の付近は廃物の置き場になるなど、立地条件が悪くなり、保護に苦慮しています。